

日本株式プラス型(CS)特別勘定 運用状況(2010年10月末現在)

運用方針

- 主に国内企業の株式を主要投資対象とする投資信託に投資することにより、積極的に高い投資成果を目指します。
- 運用にあたっては、運用スタイルの分散や運用会社の固有リスクの分散を図るため、基本的に当社が選定した複数の投資信託を組み合わせた運用を行います。なお、運用成果の向上を図るため、各特別勘定で投資する投資信託については、継続的にモニタリングを行い、適宜見直しを行っていきます。

資産内訳

	金額(千円)	構成比
投資信託	1,135,621	99.0%
現預金・その他	11,366	1.0%
合計	1,146,987	100.0%

運用状況

2010年10月の国内株式市場はTOPIX(配当込み)で前月比2.24%下落しました。月の上旬は日銀が追加金融緩和策を発表し、資産買い入れの基金創設にも言及したことから大きく上昇しました。しかし月末にかけては、11月にFRB(米連邦準備制度理事会)が追加金融緩和に踏み切るとの懸念から円高圧力が強まったこと、G20で各国の通貨安競争を自制するとの合意がなされ、財務省・日銀による為替介入が困難になるとの見方が台頭したこと等を背景に下落しました。このような市場環境の中、当特別勘定は2.99%下落しました。

現在、「フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3」および「アムンディ・ターゲット・ジャパン・ファンド」に投資しています。

10月は資金移動に合わせて「フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3」および「アムンディ・ターゲット・ジャパン・ファンド」の購入を行いました。

11月についても、これらのファンドへの投資を継続する方針ですが、ファンドへの投資配分・入れ替えについては適宜検討します。

ユニット・プライス騰落状況

ユニット・プライス	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定率
68.75332395	▲2.99%	▲5.59%	▲18.15%	▲8.96%	▲44.63%	▲31.25%

(注)ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための参考値で、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として数値化したものです。

ユニット・プライスの推移(運用開始日:2005年5月1日)



ポートフォリオの状況

[組入れ投資信託(投資比率)]



(注)「p11下段」等と記載してあるのは、各投資信託の運用状況を記載しているページです。ご参照ください。

ご注意

『当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を2/22ページに掲載していますので、必ずご参照ください』

■将来の投資成果を保証するものではありません

当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。